

2021年9月9日 中国新聞デジタル掲載
(掲載にあたっては、中国新聞社の許諾を得ています)

トップ > 地域ニュース > 中国地方のニュース > ロボットでフレイル予防 呉市社協、豪雨被災者支援きっかけ

地域ニュース

ロボットでフレイル予防 呉市社協、豪雨被災者支援きっかけ

2021/9/9 15:56

呉市社会福祉協議会が高齢者の虚弱（フレイル）予防のエクササイズに、装着型のロボットを取り入れている。2018年7月の西日本豪雨の被災者支援で活用したところ好評で、現在は市内4カ所を実施。広島県内の社協でも珍しい取り組みだ。

郷原市民センター（郷原町）では6月から毎週、体験会を開催。8月下旬の回には10人のお年寄りが参加した。1人ずつロボットを腰に装着。市社協職員から指導を受けながら約20分間、立ったり座ったりや屈伸の運動をした。



郷原市民センターでの体験会でHALを装着して運動する参加者（右）

膝痛があるという近くの岡丸美津代さん（90）は「無理なく楽に動けた。背筋がびんと伸びたようで、気分がすっきりした」と喜んだ。

ロボットは、サイバーダイン（茨城県つくば市）が開発した「HAL（ハル）」。脳から筋肉に伝わる電気信号を読み取り、体の動きをサポートする。装着して動作を重ねることで身体機能の維持・向上に役立つとされ、医療機関などでリハビリにも使われている。

市社協が豪雨後、被災者支援の一環として仮設住宅で体験会を開いたところ、「姿勢が良くなった」などと評判が良かった。18年11月から3台をリース契約し、本格的に活用。市内の通所介護事業所2カ所で使い、郷原町のほか蒲刈町でも住民向けに毎週、体験会を開いている。

市社協の中本克州会長は「運動量が減ってきた高齢者が少しでも長く健康に過ごせるよう役立てたい」とし、体験会の地域を広げたいとしている。（仁科裕成）